



ニューズレター

低平地研究会 (LORA), 国際低平地研究協会 (IALT)

No. 107

<https://lora-saga.jp/>

<https://lora-saga.jp/ialt/>

☎840-8502 佐賀市本庄町1 佐賀大学理工学部内 TEL/FAX : 0952-28-8712

令和5(2023)年06月30日

2023年度 第1回低平地研究会

運営委員会の開催

表記の委員会が5月26日(金)15:00~16:00に佐賀大学理工学部3号館会議室にて開催されました。

王丸会長ならびに大串運営委員長の挨拶を皮切りとして、2022年度の活動内容と決算報告、2023年度の活動内容と予算計画について審議されました。いずれも承認され、2023年度の活動が開始されます。

本年度は低平地研究会発足30周年となりますので、記念事業として講演会、シンポジウム、記念誌作成が計画されています。詳細が決まり次第、低平地研究会のウェブページや書面にてご案内いたします。会員の皆様のご参加お待ちしております。



王丸会長の挨拶



会議の様子

活動報告会の開催

5月26日(金)16:30~17:30に佐賀大学理工学部3号館大セミナー室において、Zoomを併用したハイブリッド形式で開催されました。王丸会長の挨拶の後、運営委員長による運営委員会報告や、6つの部会(基盤整備、都市空間、環境、地域創成、歴史・文化、低平地防災)から2022年度の活動が報告されました。

前年度は活動制限が緩和されたこともあり、対面形式の諸活動が多く、コロナ禍以前の活発さが戻りつつあります。さらにオンライン形式やオンデマンド形式の併用により、より参加しやすい環境や会期後の見直し環境も構築でき、多様性のある情報発信の形態が形成されました。



大串運営委員長の挨拶



基盤整備専門部会の報告

低平地研究に関する豆知識 -その 37-

「低平地を測る」

佐賀県南部の低平地に広がるクリークは、同地域のシンボルであり、農業、防災、環境維持の面から地域社会にとって必須要素の一つといえます。最近では、クリークや水田を活用した「流域治水」や、その成り立ちについての特集テレビ番組が放映されるなど、改めて注目される機会がありました。しかし、クリークのように面的に広がるものの現状を把握しようとするのは困難です。昨今ではレーザー航空測量などによって精密かつ精細な地盤高の観測とその成果を利用できるようになりましたが、時間変化する様な事象、たとえばクリークの水位や貯水量の適時把握はできていません。また、クリークの水位管理は人海戦術によって成立していますので、人口減少、少子高齢化社会の現状を踏まえると、クリークの維持も危ういとも指摘できます。

しかし観測技術は日々進歩しています。本年5月にはドローンを活用した水路管理の実証実験が行われました。また、同月にはGNSSによる標高観測の精度向上に資する高精細ジオイド計測が終了したことが国土地理院から発表されました。ドローンやGNSS技術発達は面的な観測には欠かせないので、今後のクリークの維持管理が改善されることが期待されます。



ひがさすから望む低平地
(三島悠一郎：佐賀大学理工学部)

環境専門部会

低平地に関する ASIAN 協働セミナー 開催案内

例年開催されている表題のセミナーを、本年度は9月4日(月)～8日(金)で開催することを予定しています。本年度はハイブリッド形式で、メイン会場がインドネシアのハサヌディン大学となる予定です。

Zoom によるライブ形式の講義だけでなく、録画やオンデマンド資料を準備いたしますので、ライブ参加でなくともセミナーに参加できます。会期が近づきましたら会員の皆様へ改めてご案内いたします。

地域創生専門部会 冊子刊行

「西九州新幹線の議論と今後 —JR九州と九州の地方創生—」

西九州新幹線の計画や新幹線の課題、新しい新幹線の形態に関わる構想に関して、これまでの議論や考察をまとめた冊子が刊行されました。余部に限りがありますが、ご興味ございましたら研究会事務局へお問い合わせください。



低平地研究 No. 32 発行のご案内

機関誌の「低平地研究」No.32 が発行されます。本年度は「史料にみる江戸・明治期佐賀の災害」と題した特集記事が掲載されています。論文・報告では8編の論文が掲載されています。

バックナンバーはウェブサイトの図書室コーナーにて会員限定で閲覧できます。

環境専門部会

簡易水位計導入マニュアルを公開予定

環境専門部会では、より簡易に水位モニタリングができることを目指して簡易水位計の制作と実証試験を行ってきました。昨年度の修士論文において測定精度を確認できましたので、今年度は若干の改良と導入マニュアルの作成を進め、低平地研究会のウェブサイトにて公開する予定です。既存の水位計と比べると堅牢性や精度の面では劣りますが、DIYによる制作を前提としていますので低価格なパッケージとなっています。河川の水位観測の新点設置の予備調査など、試しに測ってみたい水位を手軽にモニターできるデバイスなので、最初の一步には好適なツールになるのではないかと期待しています。



試作版の写真 (三島悠一郎：佐賀大学理工学部)

編集後記

対面活動が活発になり改めて感じましたが、オンライン活動のみでは何かと不足していた3年間でした。それを取り戻すべく、今年度はドンドン活動したいです。

編集：三島悠一郎、後藤、武富 (lora@lora-saga.jp)

巻頭写真：田原千裕 (佐賀大学理工学部都市工学部門)